

「障害と開発」の立場から 見た「障害」と「ジェンダー」 の間の相似点と差異

日本貿易振興機構
アジア経済研究所
新領域研究センター
森 壮也

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

構成

1. 障害と開発: カutting・イシューとしての障害
2. ジェンダーと開発
3. 開発から障害、ジェンダーを見る: 2つの軸
4. まとめ

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

「障害と開発」

開発途上国の障害者の問題を扱う問題群あるいは、研究テーマ

- 開発途上国にも障害者はいる
- むしろ、障害者は貧困状況が日常的である開発途上国でこそ、その絶対数も政策的重要性も大
- 現在、世界には6億5,000万人以上の障害者がいると推定
- そのうちの8割が開発途上国に存在
- MDGs(ミレニアム開発目標)を考えると「障害と開発」は、今、喫緊の課題

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

慈善的なアプローチから開発アプローチへ

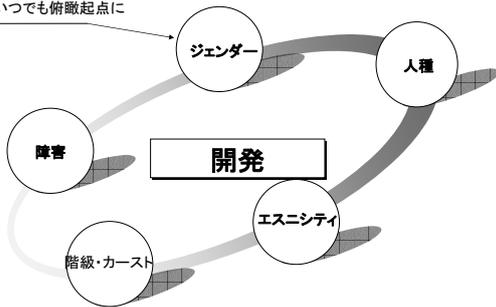
- 「開発の問題としての障害者の問題へのアプローチ」～国連ESCAP
 - アジア太平洋地域では、アジア太平洋障害者の10年、また現在進行中のその後の10年の過程を通じて、一般的なものに
 - 「障害」の問題は、「開発」の問題と結びつく
- さらに進んで「開発」の側からの「障害」の問題の取り込みも
 - 開発分野での「障害」のメインストリーミング化
- 「開発アプローチ」
 - 障害の問題は、特殊な問題、あるいは周縁的な問題に非ず
 - あらゆる領域に関係したCross-Cutting Issue
 - 「障害と開発」分野で現在主流となっているメインストリーミングとエンパワメントの立場とも整合的
- もうひとつのCross-Cutting Issueとしてのジェンダー
 - ミース(1986)など～開発途上国における女性の位置、また経済発展の進展という開発過程での男女の役割分担の変化などに関心

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

開発をめぐる様々なクロスカッティング・イシュー

これらはいつでも俯瞰起点に



障害学会2006報告

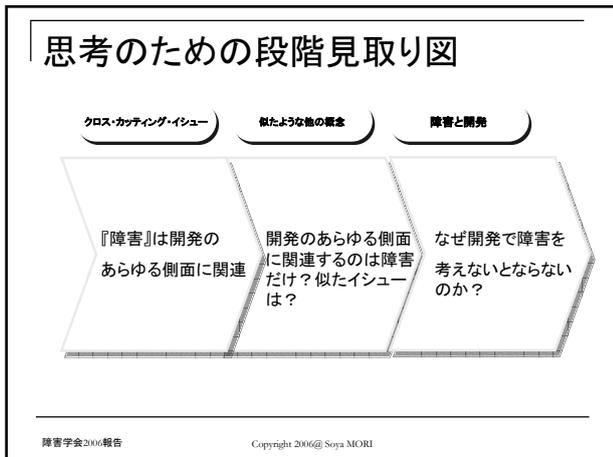
Copyright 2006@ Soya MORI

開発のテーマでカッティングされる対象



障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI



- ### 「ジェンダーと開発」
- 「ジェンダーと開発」から学ぶ「障害と開発」
 - 1970年代～WID(Woman in Development)
 - 「女性が開発過程から疎外されている」
 - 「女性を開発過程にインテグレートする必要」
 - 「生産者としての能力を十分開花させていない人的資源としての女性」
 - 1980年代～GAD(Gender and Development)
 - 女性だけに焦点を当てるWIDの手法の限界
 - 男女の社会関係、ジェンダー関係をそのままにしては、いかなる方策も女性の男性への従属を変えることはできない
 - 既存体制の中に既得権を持つ集団にとっては脅威～各国の援助機関や国際機関は、GADを取り込みながらWIDが基本
- 障害学会2006報告 Copyright 2006@ Soya MORI

- ### ジェンダー・プランニング
- 開発過程を通じて、ジェンダーから生じる不平等や不公正を正していくために、「政策」、「計画」、「実施の仕組み」が一体になった『計画過程』が必要～ジェンダー・プランニング (Moser)
 - 男女での世帯の中での地位や諸資源のコントロールのあり方、社会での役割、ニーズの違い⇒一般の「低所得階層世帯」のニーズだけではなく、「女性」のニーズを念頭に置いた焦点化の必要
 - 福祉アプローチ⇒WIDアプローチ⇒エンパワメント・アプローチ
- 障害学会2006報告 Copyright 2006@ Soya MORI

開発から障害、ジェンダーを見る

- 世界で障害を持つ女性の数は、2億5,000万人 (DPI)、うち、約75%が開発途上国に
- 途上国の女性への二重の差別
 - 非障害者女性は通常、世界の大部分で子供の世話、配偶者、両親、病気や障害を持つ家族の世話を担当⇒障害女性の結婚の機会を最小化
 - 同時に障害者男性と非障害者女性との結婚多し
 - 教育を受ける機会等の制約、特別なニーズへの低いプライオリティ

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

Oxfamが経験してきた事例から見る 先入観・無意識の仮定の問題

- 障害者はセックスと切り離された存在で、障害によってのみ影響を受ける存在
- サービス等は利用可能なら男女で同じようにアクセシブルであるはずだし、同じような影響を及ぼすはずだ
- 社会や法は、男女で同じような権利を与えるはずだ
- 資源は限られており、女性障害者の特定の事例や状況を見ることで時間を無駄にしてはならない
- 一般的に言って、男女の障害者の間で現在の地位や状況について特にそれぞれ固有の問題というのではない

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

ImpairmentとDisabilityから見た ジェンダーと障害

- 障害の社会モデルで言うImpairmentとDisabilityというタームを用いると...
 1. Disabilityについて、先天性の人と後天性の人で違いがあるかどうか(ジェンダーではこういう問題は出てこない)
 2. DisabilityとElderlyの問題の間での差(「障害と開発」の議論の中で、日本の社会でこの間の差が強調されすぎている問題があることが指摘されているが、Genderに比べて、Elderlyとの関係が違ってくる)
 3. Genderの場合、いわゆる経済発展段階との関わりで、男女の役割に変化が生じてきているというような分析があるが、Disabilityでは、労働疎外のあり方に変化が生じてきているように排除の仕組みの方に変化が出てくる

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

1. 先天性の人と後天性の人で違いがあるか

- Impairmentとしては先天性と後天性の間に差はない
- Disabilityという観点から考えると、社会や環境との渡り合い方に差がある側面は見過ごせないものがあり、それがどのような意義を持つのか
- 「後天性」が、ジェンダーなどで言う似たような状況の「カミング・アウト」とはどのように似ていて、異なるのか

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

2. DisabilityとElderlyの問題の間での差

- たとえば白内障の問題は日本では、高齢者の問題として扱われており、障害の問題という認識は極めて薄い
- しかしインドでは、白内障は障害の問題であり、当事者団体には多くの白内障の人たちがメンバーとして入っている
- 国や文化の違いにより障害の認識が異なるということが、高齢化と障害の問題の間の差の違いにも影響
- 何が障害で何が障害ではないのかの差を高齢化をその違いを浮き彫りにさせる鏡として用いていくことが可能

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

3. 経済発展段階との関わり

- 「ジェンダーと開発」では、工業化の進展により女性が家庭の中に押し込められ、逆に男性は工場労働力として金銭対価の対象となる労働力の提供主体にますますなっていくというような議論
- 「障害と開発」の議論では、むしろ工業化、近代化がもたらしたのは、労働者の労働市場からの疎外
- 障害者自体の変化のみが議論される傾向があり、対立する非障害者の側での変化は、これまでほとんど議論されてきていない

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

まとめ

- 障害とジェンダーの二つの概念の相似点と相違点
 - ↓
 - 「障害」の意味の再検討
 - 「障害と開発」の中で論じられるようになった「障害」の意味の再確認
 - ここでいう「障害」は、医学的な概念としてではなく、障害の社会モデルで言われている「障害」
 - ↓
 - 将来的な展開としては、「障害と開発」というコンテキストを離れたより一般的な「障害」と「ジェンダー」の議論
 - (本報告では、「障害と開発」というコンテキストの中に限定した議論)

障害学会2006報告

Copyright 2006@ Soya MORI

参考文献リスト

- AIFO, National policy in Malawi for equalization of opportunities for persons with disabilities, AIFO, June 2005, <http://www.aifo.it/english/resources/online/books/cbr/NationalPolicy-Malawi05.pdf> (Download on 2006/05/18)
- Andrea Cornwall, 'Men, masculinity and 'gender in development', *Gender and Development* Vol.5, No.2, June 1997
- Leo Bashyam, International Development Aid: Addressing Dalit Issues, http://www.ambedkar.org/Worldwide_Dalits/intl_aid_addressing_dalit_issues.htm (Download on 2006/05/18)
- E.Boserup, *Women's Role in Economic Development*, St Martins Press, 1970
- 久埜子編『叢書 現代の経済・社会とジェンダー 第1巻 経済学とジェンダー』明石書店、2002年
- Lina Abu Habib, Woman and disability don't mix: double discrimination and disabled woman's rights, *Gender and Development* Vol.3, No.2, June 1995
- Maria Mies, *Patriarchy and Accumulation on a World Scale*, Zed Books, 1986 奥田暁子訳『国際分業と女性 進行する主婦化』日本経済評論社、1997年
- 松久玲子「メキシコにおける教育政策とジェンダー」『言語文化 1-2』、同志社大学言語文化学会、PP.355-392、1998年
- 村松安子「『開発と女性(WID)』領域における女性の役割観の変遷」原・大沢・丸山・山本編『ライブラリ 相関社会科学2 ジェンダー』新世社、1994年
- 高嶺豊「ESCAPの障害に関する活動」, 日本障害者リハビリテーション協会1999年10月27日 国際シンポジウム国際シンポジウム、<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/conf/19991027/19991027Escap.htm> (Download on 2006/05/18)
- Therese Sands, for PWDA, A voice of our own: advocacy by women with disability in Australia and the Pacific, *Gender and Development* Vol.3, No.3, November 2005
